留学生国知版 vol.4

cosmos

JAPAN / KOREA / CHINA / MALAYSHIA / BANGLADESH
PAKISTAN / TUNISIA / TAIWAN / MYANMAR / THAILAND
HONDURAS / CUBA / PHILIPPINES / INDONESIA / VIETNAM
SAUDI ARABIA / LAOS / BRAZIL

国際交流会館新設

九州工業大学　情報工学部　学務係

平成１０年度第３次補正予算により、情報工学部に国際交流会館が新設されることになりました。将来計画で学生および研究者の居住ゾーンとして予定されていた飯塚キャンパスの北門付近に建設され、着工は平成１１年３月、竣工は平成１２年２月２８日で、入居は平成１２年４月からです。

建物はＡ棟＝単身室、Ｂ棟＝夫婦・家族室の２棟に分かれ、居室数は、単身室１２（１）、夫婦室３（１）・家族室３（１）で括弧（　）内は研究者用で内数です。

はじめに

飯塚友情ネットワーク代表

縄田　修

留学生会報「コスモス」も第４号を発刊することとなりました。
今年度は、留学生、研究生の数は７０名に達し、飯塚市という、小都市が国際化していくことを非常にうれしく思っています。

飯塚市はＩＴ産業産業への未来像をかかげて動き始め、スタンフォード大学との共同研究を開始し、近畿大学にヘンケル社のアジア研究所設立決定と私達の考えの及ばなかった大きなプロジェクトが組まれてきています。

こういう流れの中に、多くの国の留学生が、この飯塚で教育をうけ、又、研究を進められていくことは大学に意味深いことですし、重要な事です。

飯塚市民は特に小・中・高校の生徒と留学生との交流は重要で、留学生を通し、世界の国々のことを直接理解する事が出来るチャンスを得たわけです。

一方、留学生も研究生活は大変重要ですが、空いた時間を利用し、自分の国の社会や文化を飯塚市民、日本国民に広める義務もあるのではないでしょうか。

今回飯塚友情ネットワークに対し、「宝くじ協会」より、留学生と日本の学生との交流の場としてのホームページ作成と資料収集の為にと１８０万円の援助金をいただくことか決定しました。この機会を利用して多いに母国の紹介、宣伝をしてください。留学生の御協力をお願い致します。

将来、飯塚の留学生が飯塚で起業家として成功される環境が生まれる事を夢見ております。

ごあいさつ

留学生会会長
サイフルザ　アルイ　スハイミ　プザ（マレーシア）

留学生活というものは来日して初めて経験しています。母国のマレーシアから何千キロも離れた日本に留学し、最初はすごく不安を感じました。「日本で一人暮しするのは大丈夫かなぁ。」といつも思っていました。それまでいろんなことを楽しみにしてやってきたけど、楽しみながらも不安がっていたのは初めてだったのです。２０００年４月になってちょうど４年間の日本での暮らしを味わい、その間に楽しいこともあり、苦しい事そして悲しい事を自分で経験したり、見たりしたのです。勉学に対してももちろん難しくて、理解しにくい部分もあるけれど、それは生きている限り必ずあることだと思います。日本に留学するという決断をして本当によかったと思います。何処にも行かずに自分の国で生活し続けたままであったらこんな豊かな人生経験を得ることが出来なかったと思うのです。

徳島県の阿南高専で勉強した時、日本のことをよく知って理解するために沢山の国際交流イベントに参加させてもらいました。日本も含めていろんな国から来た人たちと友達になって、お陰で他の国のことを知る事ができ、その国に対する考え方も少しずついい方向に向いたのです。飯塚も阿南も同じ様な田舎ですが、市民の豊かな心と優しさがいつまでも忘れられません。親切であたたかい気持ちで声をかけてくれるみんなにとても感動しました。去年４月に九工大３年に編入して、やはり大学生として更に勉強もレベルアップします。当然留学生の立場であるので、勉強が最大の目的です。既に一年たって、現在学部の最終学年で卒業研究のはじめているので、研究テーマの理論の理解を深めるため頑張っています。同時に今年の５月から留学生会の会長をやらせていただいています。友情ネットワークの方々、ボランティア関係者の方々、そして特に留学生の皆さん、今後ともよろしくお願いします。皆で力をあわせて頑張っていきましょう！これから忙しくなると思いますが、夏がやって来ると共に皆さんも暖かい心で応援と御協力をおねがいします。

留学生と地域

二瀬公民館館長

原　一久

九州工業大学情報工学部の留学生は今年六十名の大世帯になり、異国の地で勉学に励んでいます。

本年四月には、大学内に留学生交流会館も完成し、留学生には快適な生活も出来るようになりました。

しかし、まだまだ、住居や、生活用品等で困っている留学生も多いのです。

地域では、リサイクル自転車の提供や、留学生の引越しの手伝い、レクリエーション等を計画し、小さな「国際交流」もすでに展開していますし、住民の方々も地域内に留学生が多く住んでいる町として認識し、種々の日用品の提供も進んで応援してくれています。

地域の願いとは別に、未だ地域になじんでくれない留学生も多く、様々な催しの案内をしますが、全く参加しない留学生もいる様です。

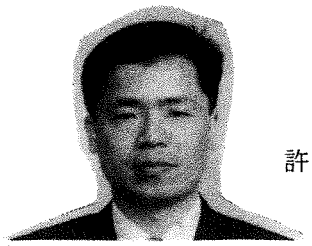
最近では、市内の小中学校で国際交流の学習が多く開かれ、参加の要請があるのですが、特定の留学生しか参加してくれません。

留学生に提供できる日用品は地域の住民の方々からの支援があるからこそ出来る事業と思いますし、留学生も何かと理解して欲しいと思います。又、折角の外国留学です、地域の人たちと交流を持ち日本の文化を世界に広めて欲しいと思います。

ところで、四月には飯塚市のビッグイベントであります「まつり飯塚」ドンタクフェスティバルに初めて、留学生二十五名が参加しました。「炭坑節」を民族衣装で踊り、多くの市民の方々より大きな声援を受けました。

地域では、新しい留学生用の事業が次々と企画されています。古雑誌や空き缶の回収をし、リサイクルとして資金を集め、外国の子供達に学用品を送る活動です。一般の九工大生もたくさん参加します。是非留学生も参加していただき、外国と飯塚の国際交流の掛け橋となる様、期待するものです。

私の国際交流



許　宗　ふん（HUH Jong-Hoon）

チョオムベケスムニダ！（はじめまして）

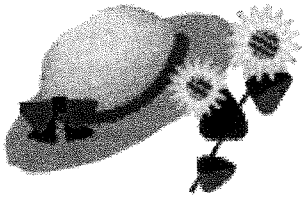
今年４月から九州工業大学情報工学部留学生担当教官として勤めるようになりました許（ホ）と申します。来日してから７年目、西暦は２０００年に入り、何かいいことが起きるのではないかと思っていたら、飯塚への新しい道が開かれました。何よりも飯塚友情ネットワークの皆さまと留学生との国際交流の場に入らさせてもらえることを期待しています。今までは福岡国際交流協会、福岡市民センター、地域の小・中学校、また大学内での国際交流から多くのことを学びました。国々の様々な文化に触れることができ、それを通して自国の文化に対しても改めて目ざめる機会になりました。つまらない話になるかもしれませんが、これまでの国際交流の経験から感じてきたいくつかのことを分かち合いたいと思います。

まず、国際交流というのは、お互いのことを知り、お互いのことを尊重することから始まるのではないかと思います。文明の優劣はあるが文化の優劣はあり得ないと思います。というのは、何百年あるいは何千年前からその国の特有の自然や社会環境から生まれ伝われてきたその固有の文化は、他国の文化と比べるものではありません。国それぞれの尊い価値がその文化に含まれているわけです。フォークなど使わずに手で食事をする国民に対して、非衛生的ですからポークやお箸を使いなさいと言う資格をもつ人はだれ一人もいないと思います。それは、文化の違いだけなのです。また、中国や韓国では犬肉を食べる人も少なくないですが、１０年前か韓国のソウル・オリンピックの時、欧米の動物保護団体からそのことに対して多くの非難を受けたことを覚えています。それは、大まちがいだと今も思っているのです。食べていい動物と食べてはいけない動物を決めるのは、その国あるいは地域の社会環境や宗教などの問題なのです。たとえ、牛肉あるいは豚肉を食べない国の人が、もし欧米人にそれを食べてはいけないと主張するなら、欧米人はどのように答えるでしょうか。それは、食文化の違いだけなのです。未開人か文明人かの問題ではありません。それぞれの文化を理解し合い、それをお互いに尊重することから国際交流は始まると思います。

また、国際交流というのは、国籍や人種・宗教を越えて神様の被造物としての人間そのものの普遍的な価値を認め、それを高めることではないかと思います。いつから始まったのか知りませんが、国籍や人種間、また宗教間に優越感と劣等意識が入り込み、歴史上多くの戦争が起こったり、現在もある地域に続いています。我々は神様の前ではみんな平等で、尊い存在であることを忘れてはいけないと思います。人間という存在は、国籍や人種・宗教を問わず愛と幸福をいつまでも求めるものではありませんか。私が求めているように、だれでも求めているに違いありません。その時、自分のことだけではなく、他の人のことも顧みることが人間の素晴らしさだと思うのです。アフリカ大陸の聖子であったアルベルト・.シューバイチャは、「私は、生きようとしている命に囲まれている生きようとしている命である」という「生命への畏敬」をいつも心に留めていました。その精神こそ、我々の現在の国際交流に生かすものではないでしょうか。

最後に、国際交流ではお互いの積極性が求められます。その時、自分のことを大事に思わないといけません。国際交流は、どちらからの一方的な教えや助けではないと思います。自分の事や自国の事などを誇りをもってアピールする積極性が必要となります。自分のことや自国の文化は、それだけの尊い価値があるわけです。また、他国のことを積極的に学び取る必要があります。そこには、自分が考えたこともない人間の美しさと素晴らしさが宝のように隠されていると思います。

２１世紀は、間違いなく「情報社会・国際化社会・文化の時代」が訪れると思います。２０世紀に生まれて２１世紀に生きる私において、国際交流を通して国々の様々な情報と文化とをより多く学び合いたいと思います。



私の留学生活

——九工大留学生・徐青

何を書くのかなかなか思いつかなくて、ここで、やはり、自分の生活を紹介して、日本のみなさんに一人の私費留学生としての生活を理解してもらいたいと思います。

まず、簡単な履歴からいいます。

１９９３年４月１０日	来日
１９９３年４月～１９９５年３月	YMCA 日本語学校小倉校
１９９５年４月	九工大情報工学部入学
１９９５年４月～１９９６年３月	出産のため休学
１９９５年９月３日	一人娘（千尋）が誕生
１９９６年４月～２０００年３月	制御システム工学科
２０００年３月	学部卒業
２０００年４月～現在	大学院修士課程

日本に来てから２年半は北九州に住んでいました。その間、学費と生活のため、いろいろなバイトをしました、たとえば、皿洗いや、通信販売の荷造りや、新聞配達などをやりました。厳しい生活ですが、勉強生活が充実で、たのしかったです。この２年半の間、残念なことで、自分の保証人の他、日本人の友たちがあまりできなかったです。

１９９５年１０月に、飯塚に引っ越して来ました。来る前に、とても不安でした。友達もいないし、知り合いもいなかった。しかし、ここに来てからまもなく、二瀬公民館から連絡が来ました、留学生のみんなに自転車や日常用品などを用意してくれました。最初は、信じられなかったですが、これが本当のことでした。私は、自転車を始め、タンスや、布団や、いろいろな電気製品までもらいました。

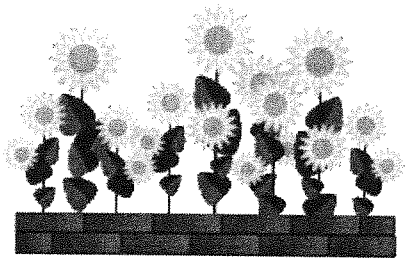
これは、飯塚フレンドシップ友情ネットワークと二瀬公民館のみなさまのおかげです。

今では、二瀬公民館だけではなく、鎮西公民館や、沢山の熱心な日本の方からも、留学生の支援をしています。

私は、この４年半あまりの間、沢山の日本人と知り合って、友達になりました。篠栗まで、友たちができました。これは、きっかけがもちろん重要なんですが、自ら積極的に前に進まないと、いくらチャンスがあっても、無駄になってしまうだけです。自分の経験としては、一番大事なのは、まず、地域の活動にちゃんと参加すること、これで、普通の日本人に出会えるし、文化などの違いも早く理解できるし、もっとも直接なのは、日本語の練習にもなります。また、この中で、いい友達もできます。

私費留学生なので、アルバイトをしながら勉強しなければならない。しかし、研究生活が忙しいけれど、いろんな地域のイベントを参加しています。たとえば、青少年アンビシャス運動１００人委員会の一員として、青少年の教育問題などについて、みんなと一緒に考えています。また、中国語を教えたり、中国の家庭料理餃子や肉まんの作り方を教えたりしています。自分も、趣味で、月に３回二瀬公民館の籐手芸教室に通っています。やりたいことがいっぱいあって、忙しいけれど、とても充実して、楽しいです。

残り後２年間の留学生活を楽しくで来るように、研究にも、子育てにも、生活にも、地域の活動にも、悔いを残らないようにがんばっていきたいと思います。皆さんもまた応援してくださいね。



馴染めないニッポンはどうするか

九州工業大学大学院情報システム専攻
Arnold P. Siboro
(シボロ・アーノルド)

私は平成５年１０月に来日しましたので今年平成１２年の１０月に来日７周年となります。来日当時は日本語は全く知らずそれ以前日本に行ったこともなく関心もそれほどなかったため、日本の習慣に関する知識も非常に低かったです。ある場所に住んで６、７年も経つとかなりのことを知りますが、私も日本語や日本の習慣などについて来日当時に比べてかなりのことを知るようになりました。ここ７年間滅多に見ない母国インドネシアに久しぶりに帰ると外国にいるような気分となるぐらい日本という国になれてしまったのです。日本人が一般的に持っている偏見である「外人が納豆をたべれない」についても私には全く当てはまりません。納豆より素晴らしい日本の食べ物はあまりないと思うぐらい納豆が好きです。

しかし、どうしても馴染めない日本があります。いくつかの私の体験をもって説明します。

１．海外出張に必要な外国ビザを申請するため貯金残高証明書が必要なときがありました。福岡県の大手銀行に行き発行を依頼したら印鑑が求められました。ちょうどその時は印鑑をなくしていたのでサインでお願いしました。しかし、印鑑で口座を作ったので印鑑がなければできないと言われました。その日すぐに残高証明書が必要ですし、印鑑に変わるものがあると思うので「なんのために印鑑が必要ですか」と聞きました。もちろん予想通り本人の確認のためです。「じゃ、本人である私はここに立っているし、免許証、パスポート、学生書、サインなどを持っていますので、本人の確認ができます。残高証明書を出してください」というと、すぐにノーの答えがでていくらいっても変わりなませんでした。私もしつこいので「印鑑を無くしたのでしたらどんな印鑑でもいいので買ってきて口座の印鑑の印を変えます。そうすると残高証明を発行します」と言われました。これはまたおかしい。なんの目的で印鑑が必要かを何度も問いかけたのですが、無駄な努力でした。そのまま銀行を出て郵便局に行き残高証明書を印鑑なしで作ってもらいました。それを持ってその大手銀行に戻り、先程の係員を呼んでこう言いました「郵便局で印鑑なしでしかも手数料なしで残高証明書を作りました。これから私のこの銀行での口座をやめます。友人たちにもこの銀行を利用しないように勧めます。上司に伝えてください」と言って帰りました。

２．去年の工大祭での出来事です。史上初(まぁ、世界初といっても良い)の飯塚留学生会参加の途中に大雨が降り出しました。水の

流れが悪くてテントの中まで水が溜りました。これじゃいけないと思い水を流すために土を少し掘ることを考えました。道具を借りるためにその旨を学務係に伝えましたが、道具は工大祭委員会が管理するので工大祭委員会のテントに行くようにと言われました。雨がますます強くなる中で責任者が顔をだそうもせずに「グランドを掘ったりするのはやめてください」という風に言われました。こちらの言うことを聞こうもしませんでした。別に大きな穴を掘るわけじゃないし、言われるように我慢するよりもなにかを考えてした方がいいと議論しましたが、だめでした。

3．同じく去年の工大祭での出来事です。いよいよ工大祭も終り片付ける時間が来ました。トラックが必要ですが、トラックを持っていないし、レンタルするための金銭的な余裕もなくニ瀬公民館から借りることにしました。しかし、他の留学生のグループが先に借り留学生会が待たないといけませんでした。工大祭期間中に構内へは車で入っていけないことになっています。片付けのために工大祭委員会で決められた時間にしかトラックを入れることができません。私達の順番が過ぎてからやっとトラックを借りることができましたが、構内に入ろうとしたら止められました。事情を説明し理解を求めましたが、まったく応じてくれませんでした。お願いだけじゃ無理なので1にあるようにまた目的を聞きました。「なんのためにトラックの出入りを制限していますか」という質問に「混雑を防ぐためです」と何気なく答えられました。「じゃ、今全く混雑していないし、今も混雑していませんでしたし、これからも混雑する様子はありません。入れてください」と言いましたが、全くだめでした。疲れのせいもあって、かなりもめましたが、だめでした。

以上の体験から私は「目的を無視し柔軟性のないルール厳守」を見ます。これは私に馴染めないニッポンです。大学生のころからこのようなルールの作り方・守り方をすると、政治や企業のトップになると一般国民の声を聞かない官僚人間となることは当たり前かも知れません。しかしこれからも日本で生活する上で私はこの馴染めないニッポンをどうするかを考えつつあります。

日本変われと偉そうに言う立場ではないのですが、最近の日本の国内・国際の問題を見ると柔軟性が欠けていることは一つの大事な原因だと思いませんか。今までの日本は経済が順調に成長しつづけたため自分たちのスタイルで世界トップになりますが、いよいよ成長も止まり今まで問題にならなかったことが問題になってきています。変わる余地はあるのであれば意識的に変えてみませんか。

ミヤッカラヤ
（ミャンマー）

花火

“花火”は人々に感動を与えてくれるものと思います。夏になると花火大会があちこちで開かれとても賑やかですね。初めて花火を見に行ったのは芦屋の花火大会でした。初めて浴衣を着、下駄を履って、遠賀川の川沿いを歩きながら花火を見に行きました。とても感動しました。日本に来る前、日本のことを勉強した時に花火大会のことを日本語ジャナルを通して知りました。花火を作るのに大変ということや日本人は花火が大好きということ、日本の花火が世界的に有名だということなど…。人々に感動を与えさせるために長い時間いろいろな研究をし、工夫して来たのでしょう。お金や労働や技術などを使っているのにもかかわらず、花火は一瞬で消えてしまいます。しかし、花火そのものは、一瞬で消えていくでしょうが、すばらし花火はいつまでも人々の心に残るでしょう。

日本の現在の社会状況は花火みたいだと思っているのは私だけでしょうか？次から次に新しいことがブームになり、花火のようにすぐ消えてしまいます。テレビのワーイドショーが一つの例です。オーム心理教事件、和歌山県のカレー事件、無差別の道路殺人事件、山口県の親子殺人事件、長崎県の保険金殺人事件、など、毎日どのチャネルを見てもそのことばから報道されています。大事件だから報道すべきですが、芸能界でのサッチー・ミッチの件、デビ夫人の件、などの大人でない大人の喧嘩のようなどうでもいいことを報道されるのを見て、他に報道するものがないかと思ってしまいます。それは人間だから怒ったり、笑ったり、悲しんだり、喜んだりする感情があります。しかし、その感情をメディアを通して皆に見せていいのでしょうか？また、そのメディアもいくら自分たちの立場（社内での成績）を守るために個人の喧嘩を報道していいのでしょうか？喧嘩を売っている方、買っている方、買わせたり、売らせたりするメディア関係の方、面白がって見ているお茶の間の皆さん！もっと大切なことを忘れてはいませんか？

現在、世の中ではこのようなことが起こっているということを朝から晩まで報道し、一時期過ぎると花火のように消えてしまって、ぜんぜんそのことに触れようとしません。これらの数々の事件は起こってしまったことを毎日報道するのも大事ですが、何でそのような事件が起ったのか、起こしてしまったらどうなるか、そのようなことがこれから起こらないようにするにはどうすればよいのか、過去のそれらの事件が今どうなっているか、なども報道した方がいいと思いませんか？

花火のように一瞬盛り上がってすぐ消えてしまう、ということは淋しいことですが、世の中はそのようなものでしょうね。

皆さんも、現在の私たち留学生と交流し、私たちが卒業後飯塚を離れても、花火のように姿が消えても、いろいろな思い出を皆さんの心の中にいつまで立っても残してくださいね。

VILLAGE LIFE IN PAKISTAN

Muhammad Abaidullah Anwar

Deciding for the topic is a difficult task when you are asked suddenly to write something in a magazine. The same was the case with me when Dr. Nawata asked me to write something in COSMOS-2000. But, if you have a good companion then this in not a difficult task but a topic of discussion for, at least, one night. So, my cute [redacted] and lovely life partner helped me and selected a good topic for me to write in COSMOS-2000 on.

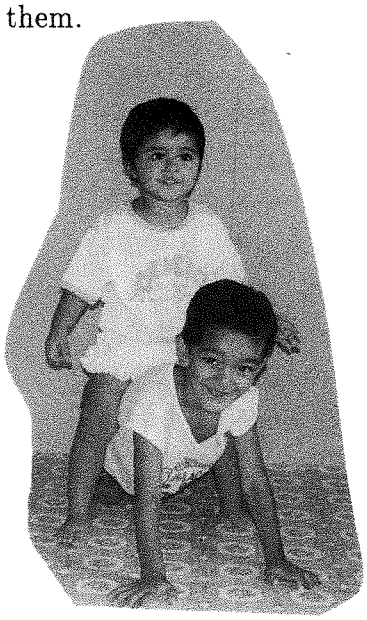
The day in villages of Pakistan starts early before the sun rise. As all of us use alarm clocks for getting up in time but cocks crows at time that help the people to wake up at time. Women start blowing milk to make butter for the breakfast and drinking yougrt (LASSI). The jingling of bangles pleasents the ear drum and this is the music no one can hear in cities. I only hear a noise of big motorcycle every morning here that awakes me in a fragile mood. The the children and women of the families from neighbouring houses , who don't have cows or buffaloes, goto such houses to take the drinking yougrt but free of cost. A 250 ml of drinking yougurt in Japan is about 300 Yen (Rupee 150/=, one week kitchen budget of a family in village of Pakistan). Now this is the time when bird start singing and everyone is enjoying it.

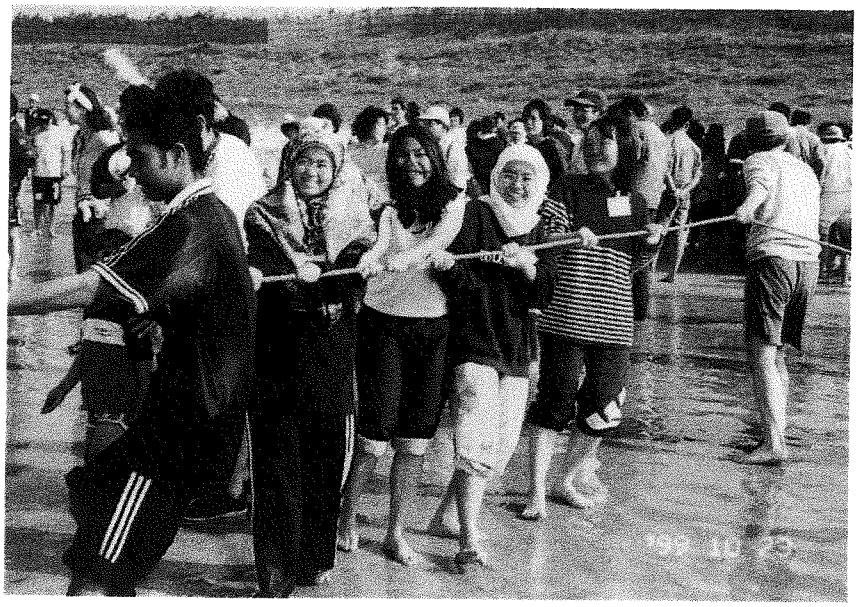
The men after pray goto their fields and after feeding and watering the cattle, they will take oxen to the fields and plough the fields for the seasonal crop. The bells in the necklace of the oxen make another music that cannot be heard while using machinery for ploughing. The smell of the ploughed earth is more precious than any fragrance in the cosmetics shops of Paris for a farmer. The other people enjoy morning walk while brushing their teeth with the fresh branch of a tree of their taste, a natural way of protecting gums. The sweet smell of rose and jasmine makes their minds fragrant for whole day. Can you have this natural fragrant at any cost in cities ?

During this time women in home make oven (TANDOOR) hot for cooking breads. The smoke comes out from every home. It makes every home look like a small factory. Japanese goto Italy for eating pizza but I invite them once visit a village in Pakistan and taste the Oven Bread. They will prefer eating oven bread and forget pizza. I am always missing oven bread here in Japan since October 5, 1995. The breakfast consists of an oven bread, a lump of butter on it and drinking yougrt. Now one women of the family, mostly wife of the farmer, will take breakfast, on his head, for the man who is in the fields. The others will take breakfast at home. There is no culture of dining tables, forks and spoons in the villages. After breakfast students will goto schools, women will clean their homes etc.

Oh! my wife served me a desert specially cooked for today while I was writing this article. Ah! it is too much delicious that I am writing its method here. The gradients of this desert are: one litre milk with high fats, 6 spoon of rice, one medium carrate and sugar. Soak the rice for one hour and grind it in a blender with carrate and some milk. Put it in the remaining milk and boil it to thick. Add sugar at this time and mix well. Keep the desert in refrigerator for some time and enjoy it. A topping of peeled almond flakes will enhance its taste.

I think now you are getting bored so I'll describe the evenings in villages and finish it. After whole day's hard work people gather in the center of the village in the evening and discuss their problems there. A type of cigar called "HUQQA" is in the center of the people and smokers smoke turn by turn. Boys play hide and seek and women gather in someone's home and discuss about the past and future. If there is a marriage in near dates then women goto the bride and bridegroom's home for singing and dancing. Before going to bed they have to prepare curd for morning. And after sleep another day is waiting for them.





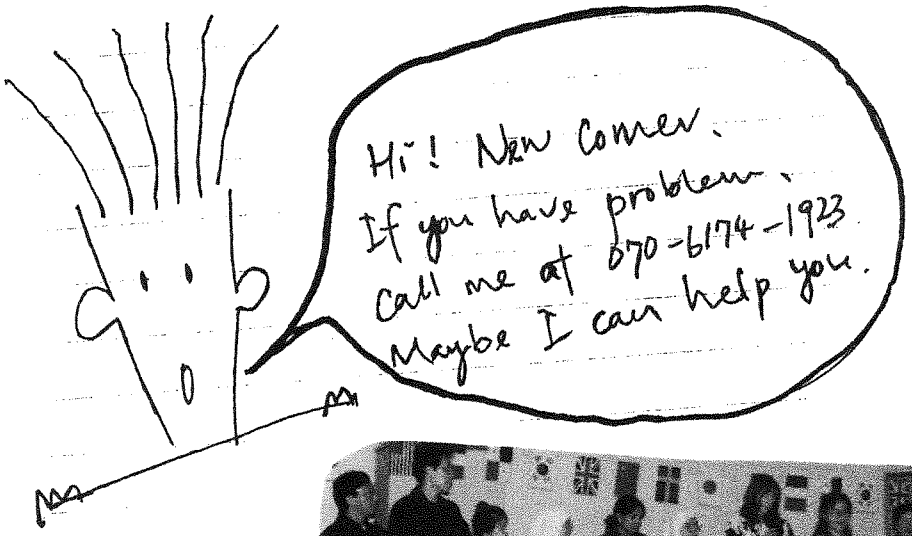
『違うという事は、学べるという事』

リム・ウィイ（マレーシア）

日本人のコミュニケーション方法を代表する言葉に「以心伝心」があります。黙っていても心と心で分かり合えるという意味ですが、つまり日本人にはお互いに自分に考えを主張し合い、相手を説得しなければ、コミュニケーションは成立しないという大前提が存在しないのです。これは他の多くの国と大きく違う日本の特質なのです。私自身、日本での留学生活で多くを学びましたが、違うという事は、学べるという事です。

国際的な常識違うからといって否定せず、拒否せずに、まずは一度うけいれてみます。主張の無さ、曖昧さは、実は気遣いが細やかで慎み深いという日本人の美徳と裏表である事と思います。とにかく、物事をネガティブな側面から見てしまうと何事も発展しません。違うということをおもしろいと感じて、その裏にある日本の魅力を積極的に探し出してみたいと思います。もし留学前に思い描いていた夢が打ち砕かれても、ある期間頑張り通せば必ずそれなりの、　いえ、ひょっとしたらもっと素晴らしい花が咲くものだと信じています。これからも一生懸命頑張っていきたいと思います。

２０００・３・３



Dear Friend in IIZUKA:

Since graduation from KIT in last April, I have been back to China for short with my family . then, after along, boring, and most of all, tired trip on airplane my family and I came to the center of America Columbia, Missouri, I am currently working as a postdoc in the Department of Biological Engineering, at University of Missouri of Columbia.

If you have read "The Adventures of Tom Sawyer" and "the Adventures of Huckleberry" you should be familiar with Missouri since Mark Twain, the author had lived in Hannibal, Missouri as a boy and later used it as the setting for incidents in these two stories. As early as the late 1600s Missouri's central location and access to major waterways made it the departure point for many expeditions and trails .The two largest of rivers in this state are the Mississippi, which delineates most of the eastern boundary, and the Missouri, which weaves eastward from Kansas City to join the Mississippi north of St..Louis. If you like to drink beer, then you probably know that the most famous brewery in the world, Budweiser, is in St.Louis, one of the largest cities in Missouri.

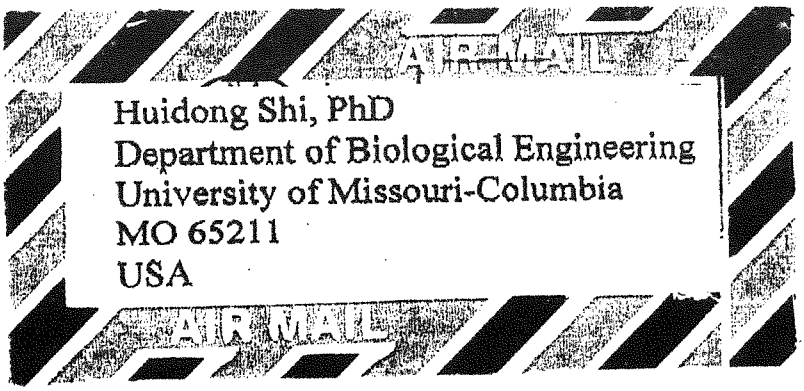
Columbia, the city we are living, is a small town located between Kansas City and St.Louis with a population around 80000. Most of the residents are the employees and students of the University of Missouri. During the summer and winter break, sometimes you can only see few people walking in the street. However, Columbia has been selected as the second best place for living in the United States in last year due to its good security and medical care conditions. Although it has the similar population as IIZUKA, Columbia is really internationalized. Over five hundred Chinese scholars and students currently studied in MU; plus their spouse and children, maybe over thousands Chinese live in Columbia. There are two Chinese grocery stores where we can buy Chinese feed, vegetables, fish and groceries. Although I do not exactly know how many foreigners from other countries live in this small town, different color people can be seen everyday and everywhere. Although there is a small Japanese grocery store in Columbia, less Japanese live or study in Columbia. I was not able to make a Japanese friend here until now. Fortunately, we have Japanese friends in St. Louis, sometimes we visit them and get a chance to practice our Japanese.

Living in US is quite different from Japan. First, I hardly realize that I am a foreigner

here and I guess many others think same way. Therefore, no body will care you even if you have different hair and skin color, and speak in different language. But in Japan, at least in Iizuka, so many warm-hearted people are ready to give us their helping hands. They help foreign students not only in their daily life but also with language studies. I do think that I was lucky to live in Iizuka during my PhD study and had lots of enjoyable time and everlasting friendship. Secondly one cannot live in the United States without a car. Having no car is just like you don't have legs.
However, can you image that it takes only 10$ to get the Missouri driver's license? I studied and practiced driving by myself and get the driver's license after one month. Third, in order to keep the position, no body here dares to be lazy. Everybody has to work hard and efficient otherwise you won't be able to get jobs.

Although there have been many difficulties in the beginning we are getting used to the life in Columbia. My son is now 16 months old; he walks very well and can speak many words. He also likes to dance with the music. We are very proud of him. We thank everybody who has helped us on any aspect during our stay in Iizuka from the bottom of our heart. If you have a chance to come to Kansas City or St,Louis please don't forget to drop by Columbia and hope to see you somewhere!

Huidong Shi



転居三回から考えたこと

鄭躍生〈中国〉現在はトロント在住

１９９０年３月桜の花が満開している中、母国から長崎に転居しました。長崎総合科学大学で日本語コース１年と学部４年の学業を終え、長崎から飯塚へ転居しました。さらに九州工業大学大学院で修士２年と博士３年の学業を終え、飯塚からカナダへ転居しました。

１回目の転居で母国を離れて新しい環境に入り、相談できる親戚や友人は一人もいないため、数え切れない困難に直面して、大変戸惑いました。２回目の転居では生活環境も変わりましたが、戸惑ったことはありませんでした。何故ならば、飯塚に転居した直後に、縄田先生を初めとするボランティアの皆様は、悩んでいることや困っていることを聞き、留学生に対する支援事業を始めました。その結果、私は異国から母国に転居したように実感していました。指導教官であるマイクロ化総合技術センターの浅野種正教授も生活面や勉強面で考慮してくださいました。私にとって正に母国にいる親戚並の存在でした。３回目の転居はすっかり慣れている飯塚を出て、相談できる親戚や友人は一人もいない異国に移動したため、１回目のの転居を複製したものになりました。１回目の転居は色んな不都合があったのですが、親戚や友人は積極的に走り回ってきた末、予定通り日本に入国しました。３回目の転居は、１回目の転居とパターンが同じですが、中身が違います。日本を出る前に酷いインフルエンザのため私達夫婦共に史上初めて体調が大きく崩れ、予定通り出発できない恐れが出てきました。こんな厳しい状況下で縄田先生は治療などいろいろ配慮し全力を挙げてくださいました。浅野教授を初めとする研究室の皆様も万全を期す努力をし、出発の最終準備まで手伝ってくださいました。飯塚市役所学校教育課の上田晃三課長や九州車いすテニス協会の森国次事務局長や近隣など多くの団体及び個人は病状や出国準備状況について強い関心を示し、支援や協力の意を伝えてきました。１０年間の日本生活最後の晩はK.T.P.椿の藤田先生の家で泊まったのです。そして藤田先生など三人が福岡空港まで見送ってくださいました。そのおかげで予定通りに出発することができました。私達三人とも大変感動しました。

以上のことをまとめて考えると、飯塚に転居した時は母国に転居する気持ちで、飯塚からトロントへ転居したときは母国から異国へ転居する気持ちでした。飯塚は僕の第二の故郷だといっても過言ではありません。福岡市の４倍ほど大きいトロント市では、ボランティア組織は事実上名前だけの遠い存在で、飯塚友情ネットワークのような身近なボランティア組織は存在しません。初めて日本に来て日本に住むことになった外国人留学生は如何にラッキーであるのかを再び認識しました。縄田先生をはじめとする飯塚友情ネットワークの皆様は本当に大変素晴らしい国際化事業を日本の為にやっていることをあらためて分かりました。最後になりますが、この場をかりて飯塚を中心とする県内にある数多くの行政民間団体並びに仲良く付き合ってきてくださった皆様に心より厚くお礼申し上げます。**ありがとう、飯塚市！ありがとう、にほん！**

CIK ABOUL RAHMAN BIN CHE IDRIS(マレーシア)

今年もまた春が訪れた。春といえば桜の花だね。しかし僕にとって、出会いと別れを告げる季節でもある。そして、４年を経て、待ってもいないこの季節（とき）がいよいよ現れ、日本に「さよなら」を告げる事になる。**好き「だよ…。日本」**

４年間くらい自分の夢を実現するために九州工業大学に入った。この大学で勉強をしながら、日本の文化にも触れてみた。初めて、日本という国の地に足を踏み入れたとき日本は寒い国だと思った。そして、この美しき思い出はここから始まった。

最初のころは、僕は言葉に困っていた。授業もおしゃべりも理解できなかった。「ここで負けちゃだめだ」と自分に言い聞かせる。そして、日本人（みんな）の力を借り、言葉を理解できるようになった。いろいろ新しい言葉を覚えていくうちに、不安や不満などが楽しさに変わり、日々の暮らしを送っていった。「ありがとう」

九州工業大学の先生達はやさしかった。勉強に困っていた僕をいろいろな面から助けてくれた。学　系さんもやさしかった。そして飯塚地域のみなさんにも感謝の気持ちを言葉に**「僕を育ててくれてありがとうございました。」**

呉　亜東〈中国〉

私は中国にいる時、日本の文化と技術に憧れた。当時、周りのみんなは一生懸命英語を勉強していた。しかし、私は仕事をしながら、夜学に通い、月曜から金曜まで一年間毎晩三時間日本語を勉強し続けた。そして五年前、留学生として日本に来た。九州工業大学で研究生としての一年間を含む四年間高機能性複合材料に関する研究をやり、博士号を取得した。平成４年に九州工業大学の助手となり、もうすぐ二年になる。

日本に来て以来自分は学術のみならず世界観も大きく進歩したと思う。心より飯塚の皆さんに感謝している。飯塚にいる間、いろいろな事を体験し、いろいろな人と知り合いになった。思い出したら、その中の楽しい事と苦しい事が全部自分の忘れられない人生の一部になる。

留学する時、中国語を教える事が一番楽しかった。中国語を勉強する飯塚の人々、二瀬公民館の職員、友情ネットワーク皆さん、また九工大の先生達に大変お世話になった。頭の中にいつもどのように恩を返したらいいか考えている。しかし、自分は心に残る不安がある。自分はずっと大学の環境の中にいて、研究だけを一生懸命やったが、まだ日本人の常識と日本社会の社交ルールを学ぶ時間がなかったため、感謝の気持ちを十分に伝えていない部分がある。今回この COSMOS を利用して、もう一回皆さんに**「ありがとうございました。」**といいます。

飯塚市は今日本に一つのシリコンバレーを目指している。そこでアメリカと同じ様に世界の人材を利用することが出来れば、飯塚市のシリコンバレーの構想が一層早く現実になるでしょう。九工大が飯塚にあることが他の町の憧れになる事と思う。

International Mother Language Day: Adoption and Background

Debatosh Debnath

The UNESCO has proclaimed February 21st as the International Mother Language Day to be observed throughout the world to commemorate the martyrs who sacrificed their lives on this very day in 1952 to establish the rightful place of *Bengali,* the state language of Bangladesh. The proclamation came in the form of a resolution unanimously adopted at the plenary session of the UNESCO at its headquarters in Paris in November 1999.

The UNESCO in its resolution said that the recognition was given bearing in mind that all moves to promote the dissemination of mother tongues will serve not only to encourage linguistic diversity and multi-lingual education but also to develop fuller awareness of linguistic and cultural traditions throughout the world and to inspire solidarity based on understanding, tolerance, and dialogue.

It might be relevant to describe in brief, what happened on 21st February 1952 and what the circumstances were at that time. India and Pakistan emerged as independent countries when the British left the Indian subcontinent in August 1947 after two centuries of colonial rule. Pakistan had two parts: West Pakistan (now Pakistan) and East Pakistan (now Bangladesh which was also known as East Bengal). The distance between the two parts of Pakistan was about 1850 kilometers and the capital of the country was in West Pakistan. The inhabitants of East Bengal spoke only Bengali and about 56 percent of the total population of Pakistan lived in East Bengal.

About six months after the birth of Pakistan, in an education conference in West Pakistan a decision was taken to adopt Urdu, and Urdu only, as the state language of Pakistan. As soon as this news reached East Bengal capital Dhaka, the students of Dhaka University exploded in protest. They strongly argued that this was not the rules of democracy and Bengali has to be the state language along with Urdu. Accepting only Urdu—a language of nobody in East Bengal—as the state language means the children must learn it in the school and everyone must use it at least for the official correspondence. In December 1947, the Dhaka University students brought out a procession to protest the imposition of Urdu as the state language. Police were employed to disperse the protesters. This was the first organized protest against the Pakistan Government.

In March 1948, Pakistan's founder Mohammad Ali Jinnah came to Dhaka. After creation of Pakistan this was his first visit to East Bengal. On his very first visit, he was confronted with an unfortunate protest. During a civic reception in Dhaka, Jinnah's announcement—"Urdu, and Urdu alone, shall be the state language of Pakistan"—was greeted by loud 'No' 'No' from the students and many of them were immediately arrested. The whole nation was boiling in anger.

The demand for the Bengali as the state language continued. But on 21st February 1952 the movement took a serious turn. On this day, demanding recognition of Bengali as the state language, thousands of students came out on the streets defying an order that barred more than four people from assembling on the streets of Dhaka, and attempted to approach the East Bengal Legislative Assembly to make the Assembly members accept their demands. Many students got arrested while they were demonstrating peacefully; at a certain point police opened fire. Several people were killed and many were wounded. This news fell like a bombshell on the people of East Bengal. The next day there was a general strike all over the country accompanied with protests and demonstrations throughout the day. The police opened fire again killing more people.

These people gave their lives for demanding the right to speak in their mother tongue. Since that day, 21st February is being observed as Language Martyrs' Day in Bangladesh. On this day, hundreds of thousands of people walk barefoot to the *Shaheed Minar,* or Martyrs' Memorial, in the center of capital Dhaka to pay floral tributes. The Memorial erected in their name has turned into a national meeting place. The love and respect that these martyrs had aroused for Bengali mother-tongue and culture, eventually laid the foundation of the war of liberation of Bangladesh.

In 1956 Pakistan Constitution, Bengali and Urdu were adopted as the state languages of Pakistan. Bangladesh declared Bengali as the state language after it become a sovereign state in 1972.

The UNESCO declaration has put the martyrs of Bangladesh's language movement on par with the workers of Chicago who in 1886 sacrificed their lives to achieve an eight-hour work day on what is observed today as May Day. Along with nation and community, language is an essential component of identity and a means by which we find our place in the world. We hope that the spirit of the International Mother Language Day will help develop in us a deep respect for not only our mother tongue, but also for those of others; and put an end to the dictates of one language over the other.

二瀬公民館の行事（留学生関係）	
定例留学生支援倉庫の整理	毎月第２金曜
まつり飯塚踊り競演会参加	４月
国際交流 in 玄海	８月
住民運動会	９月
公民館まつり	１１月
もちつき＆忘年会	１２月
留学生を送る会	３月

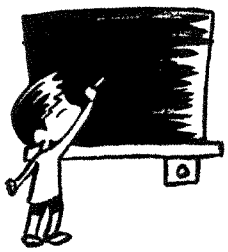
日本語講座（無料！！） JapaneseClass (Free of Charge)	
土曜日 Saturday	
場所 at	飯塚コミュニティセンター3F Iizuka Community Center 3F Tel 0948-22-3274
コース： Course	1. 初級 Introductory Course 2. 中級 Intermediate Course
休日： Holiday	祭日 National Holiday 第5土曜日 The 5th Saturday of month
連絡先 Contact	野口 博子 Ms. Hiroko Noguchi Tel 0948-25-2592

九州工業大学平成１２年度予定表

学期	月	日	曜日	行事
前学期	4月	1日	土	春季休業
		6日	木	入学式
		7日	金	新入生オリエンテーション
		9日	日	体育祭
		11日	火	前期授業開始、履修登録 学生定期健康診断
		21日	金	新入生合宿研修
		下旬		第47回　北九州・下関地区　大学体育大会(春季)
	5月	28日	日	開学記念日
	6月	中旬		教育実習（第一回）
	7月	上旬		第50回　九州地区大学体育大会
		17日	月	前期授業調整期間
		24日	月	夏期休業期間　(8月31日)
	8月	21日	月	研修生・聴講生・科目等履修生　入学願書受付
	9月	1日	金	前期授業調整期間
		6日	水	授業開始
		14日	木	前期授業終了
		18日	月	前期試験　(9月29日まで)
後学期	10月	5日	木	後期授業開始、履修登録
		中旬		第47回　北九州・下関地区　大学体育大会(秋季)
	11月	中旬		第50回　九州地区大学体育大会(冬季)
		22日	水	臨時休業日　(9月29日)
		下旬		第40回　工大際
	12月	24日	日	冬期休業　(1月6日)
	1月	8日	月	授業再開
		20日	土	大学入試センター試験
	2月	13日	火	後期授業調整補講期間
		14日	水	後期授業終了
		15日	木	学年末試験　(2月28日まで)
	3月	23日	金	学部卒業式・大学院学位記授与式

近畿大学平成１２年度予定表

（6月以降）



【平成１２年】

７月１７日（月）	前期授業終了
１８日（火）～３１日（月）	前期試験期間
８月　１日（火）～９月２０日（水）	夏期休暇開始
９月１１日（月）～１４日（木）	前期「追試験」期間
９月２１日（木）	後期授業開始
１０月２７日（金）～１０月２９日（日）	大学祭
１１月　５日（日）	創立記念日
１２月２１日（木）	冬期休暇開始

【平成１３年】

１月　９日（火）	冬期休暇終了
１０日（水）	授業再開
２２日（月）	後期授業終了
２３日（火）～２月５日	後期試験・卒業試験期間
２月１３日（火）～１６日（金）	後期「追試験」期間
３月　６日前後	転学部・転学科試験
１２日前後	卒業式
３１日（土）	平成１２年度終了

九州工業大学　留学生名簿			
氏名	性	国名	所属学科
アイズル　アズリン　アブドゥル　ハリム	男	マレーシア	機械
アストリド　ジュリアナ	女	マレーシア	知能
アフィザ　ビンティ　アブ　バカル	女	マレーシア	電子
アブドゥル　カーリック	男	パキスタン	知能
アブドル　ヒデル　ビン　アブドル　ラザク	男	マレーシア	知能
安藤　豊紀	男	ブラジル	電子
イー　イー　カイン	女	ミャンマー	機械
上間　ホセ	男	キューバ	機械
ウォン　コック　チョン	男	マレーシア	機械
オウ　ハ	男	中国	知能
ガオ　イエン	男	中国	機械
ガオ　フェン	男	中国	機械
カピール　モハメド　モヒウディン	男	バングラディッシュ	生化
ギ　ジュウチ	男	中国	機械
キム　シンジュウ	男	韓国	制御
キム　ユンピョ	男	中国	生化
キョ　シン	男	中国	機械
コシュカル　ヘディア	女	チュニジア	電子
サイフルザ　ビン　アイル　スハイミ	男	マレーシア	機械
ザイル　ルアド	男	チュニジア	機械
ザハリ　ビン　モハマド	男	マレーシア	機械
シボロ　アーノルド　パンダポタン	男	インドネシア	電子
ジョウ　カケン	男	中国	機械
ショウ　シカ	男	中国	機械
ジョージ　オオイ　チョン　ヘアン	男	マレーシア	制御
ジョ　セイ	女	中国	制御
ジョ　マツ	男	中国	機械
スー　イーシン	女	中国	機械
チュンポン　クルッギャウ	男	タイ	知能
チョン　ジョン　パール	男	韓国	制御
チン　ケンペイ	男	中国	知能
テイ　リョウリョウ	男	中国	制御
テイ　シュンジョ	女	中国	電子
トウ　ギシン	男	中国	生化
ド　ミン　トゥング	男	ベトナム	制御
ナパ　アンポン　メース	男	タイ	電子
ハナニ　ビンティ　アブド　ワハブ	女	マレーシア	知能
ハルン　ビン　スライマン	男	マレーシア	制御
バン　イー	男	中国	機械
ヒョウ　ホウ	女	中国	機械
ファン　エラ　ザリナ　マガット	女	フィリピン	生化
ブリオネス　マリア　ポーシャ	女	フィリピン	生化

ベラミン　モエズ	男	チュニジア	機械
マルズキ　キルメン　ベン　アハメド	男	チュニジア	制御
ミヤツ　カラヤ	女	ミャンマー	知能
ムハマド　アバイドゥラ　アンワー	男	パキスタン	知能
ムハマド　ハナフィ　ビン　ハッサン	男	マレーシア	機械
モハマド　ジャウワッド　ビン　サムスディン	男	マレーシア	電子
モハマド　ユサイニ　アブドゥール　ラザッック	男	マレーシア	電子
モハマド　ユスリ　ビン　アダム	男	マレーシア	電子
ヤン　チェン	女	中国	生化
ラムフザイニ　ビン　アブドゥール　ラハマン	男	マレーシア	機械
リ　エツ	男	中国	電子
リク　ブンケン	男	中国	知能
リ　ミンチョル	男	韓国	電子
リュウ　エイケツ	男	中国	機械
リュウ　シイ	男	中国	知能
リュウ　シンホウ	男	中国	機械
リョウ　シンエイ	女	中国	機械
ルックマン　エフェンディ	男	インドネシア	知能
レオナルド　ホアン　カルロス	男	ホンジュラス	知能
ワン　シンポン	男	中国	生化
ワン　チン	男	中国	生化
ワン　モハマド　フスニ　モハマド　ナシフディ	男	マレーシア	機械

近畿大学　九州工学部
平成12年度留学生名簿

大学院			
氏名	性別	国籍	専攻・学科
高　栄　俊	男	韓国	造形学
アルワヘイビー　ラーイド	男	サウジアラビア	経営工学
李　聖　庭	男	台湾	経営工学

九州工学部			
柳　文　照	男	韓国	電気工学
アルガムディ　アドナン	男	サウジアラビア	経営情報
サイビシット　ヴィタヤ	男	ラオス	電気情報工学

氏名	住所	TEL	備考
【 飯塚友情ネットワーク 】			
縄田　修	飯塚市横田３２１－１	0948-24-4755	外科医
橋本　博之	飯塚市川津208-02	25-0770	泌尿外科医
田代　隆博	嘉穂郡筑穂町長尾13-1	72-0187	
佐々木　悟	飯塚市菰田東1-7-54	22-6931	
中野　利美	飯塚市潤野885-34	24-6290	
元山　福仁	飯塚市川津206-1	25-0491	漢方医
柴田　努	飯塚市宮町4-12	24-7121	
松隈　隆和	嘉穂郡稲築町岩崎1150-1	42-0317	
嶺　敬二	飯塚市川島46-1	22-7744	
宮島　正夫	飯塚市新飯塚3-22	22-0784	
斎藤　守史	飯塚市伊川60	22-6055	
藤木　徹雄	飯塚市伊岐須490-15	29-3177	
井上　有比古	飯塚市柏の森673-3	29-0655	
津川　信	飯塚市新飯塚18-12	22-1466	小児科医
高野　新助	飯塚市本町11-22	23-6020	
越智　拓生	飯塚市柏の森618	22-9081	外科医
千々和　敬明	飯塚市庄司225	22-2998	
西原　秀一郎	飯塚市新立岩4-10	25-0070	内科医
英明	飯塚市菰田東2-11-7	22-9375	
伊藤　啓二	飯塚市飯塚5-7	24-5557	
梶原　健伯	飯塚市下三緒	23-5563	内科医
斎藤　幸二	飯塚市潤野1327-1	22-1764	
牛島　正和	嘉穂郡穂波町小正1	25-3490	内科外科医
野見山　薫	飯塚市片島3-9-3	24-5884	
柴田　康	嘉穂郡穂波町枝国水洗495-	24-8181	
奥村　守男	飯塚市新立岩2-16	21-0586	
秋元　正幸	飯塚市川津95-131	28-3032	
深見　強	飯塚市川津638	29-0764	
角田　信昭	飯塚市吉原町1-9	29-2633	
茅島　勲	嘉穂郡稲築町漆生881-9	42-4954	
榎本　広明	飯塚市片島3-4-3	22-6699	
有松　賢作	飯塚市飯塚11-20	22-1738	
【 留学生フロント 】			
岡本　千郷	嘉穂郡桂川町豆田119-3	65-0787	
野口　博子	飯塚市川津436-2	25-2592	
柳瀬　葉子	田川市大黒町4-31-201	0947-45-6486	
井手　悦子	飯塚市相田307-34-167	0948-24-7472	
(縄田　裕子)	飯塚市横田３２１－１	24-4755	
(水野　真代)	飯塚市目尾547-6	23-7015	
【 二瀬公民館 】			
原　一久	飯塚市川津675-1	22-2196	公民館館長
【 その他 】			
栗田　和廣	鞍手郡鞍手町中山立林	09494-2-3536	筑豊SGG
犬丸　憲之	嘉穂郡庄内町綱分671-26	0948-82-3013	アマチュア写真家
藤田　等	嘉穂郡穂波町椿494	21-2749	K.T.P.椿
田中　健一	飯塚市幸袋781-233	25-0639	ジャンボクラブ
村上　英輔	飯塚市本町７番19号	22-1899	筑豊交響楽団

編集者、発行者：	九州工業大学留学生会、近畿大学留学生会
後援：	飯塚友情ネットワーク、留学生フロント
連絡先：	〒８２０ 福岡県飯塚市横田松本３３４　縄田　修 電話番号　０９４８－２４－２３０３ （ナワタ消化器外科医院気付）

Published by :	Foreign Students Association of Kyushu Insitute of Technology (Iizuka Campus), Foreign Students Association of Kinki University (Kyushu Faculty of Engineering)
Sponsored by :	Iizuka Friendship Network & Ryugakusei Front
Contact Person :	Osamu Nawata 334 Matsumoto Yokota, Iizuka, Fukuoka 820 Tel. 0948-24-2303
Homepage:	http://www.iizuka.isc.kyutech.ac.jp:8020/free/kitfsa/